

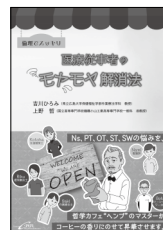
吉川ひろみ, 他 (著)

倫理でスッカリ モヤモヤ解消法

医療従事者の

野 尻 明 子

(清藤クリニック, 作業療法士)



臨床の現場でモヤモヤを感じることがない医療従事者はいないと思う。もしあまりモヤモヤしていないという方がいたら、悩みたくないのだから考えることをやめた人か、さまざまな視点から物事を考えることができる人、本書に登場する哲学カフェのマスターみたいな人だと思う。本書は、このマスターと、悩める OT, PT, ST, 看護師, ソーシャルワーカーとの対話を通して、倫理的な問題を考えている。

いろいろな読み方ができる本であるが、まず、“はじめに”と“第1章”はぜひ読んでほしい。そうすると哲学カフェ“ヘンプ”という舞台設定の幕が上がり、紹介されるそれぞれの物語に自身の経験が重なり、登場人物と一緒に考え始めることができる。倫理学の知識は、ほとんど忘れてしまった方は、2章まで読んで最後の“倫理学の知識と結び付ける章”へ一度飛んで、さっと読んでみることをお勧めする。最後の章を何となくでも読んだ後に、もう一度1章

から読んでもいいし、目次を見て気になる章から読んでもいい。そうすれば倫理学と結び付けながら読む、つまりしっかり理解しながら読むことができるからである。そのようにして12章までをすべて読み、再度最後の“結び付ける章”を読み終えたとき、本書に出会う前よりも広く深く考えることができるようになっていく自分自身に気がつくと思う(私は理解するために、何度も最後の章と他の章を行ったり来たりしながら読んだ)。“自分の行動も他人の行動も、理由が理解できれば、受け入れることができる幅が広がる”と書かれていたが、正にそのために倫理学の知識が役に立つのだと実感できる。

読んでいると、まるで私もカフェの隅の席に座ってコーヒーを飲みながら、マスターと彼らの会話を盗み聞きしている気分になる。そして思わず頷きながら、過去に自分が経験したことを思い出す。忘れていたことを思い出して胸がキュンとなったり、マスター

に突っ込みを入れたくなったりする。そして、今になって考えればそういうことだったのかと新たな気づきが生まれたりもする。マスターが最後に紹介したネパールの王子様の言葉と編集雑感が心に残り、ちょっとスッカリした、得した気分になった。

“あとがき”には、この本を読むべき理由が吉川先生の言葉で書かれている。「……よかれと思っての言動がどこかに歪みを生む、だからといって、他者との関わりを減らせば、人生は貧しくなり、社会はすさんでいく、……やはり人間は、何がよいかを考え続け、他者と社会と結び付いていかなければならないのだと思いました。倫理の知識や考え方は、心のモヤモヤを少し晴らしてくれます。」

日々の臨床が何だかうまくいっていないと感じていたら、ぜひ手に取っていただきたい1冊である。

〔 A5判 192頁 2,700円+税 〕
シービーアール 刊
☎ 03-5840-7561